



天皇陛下御即位をお祝いする 宮崎県民の集い



とき 令和元年11月7日（木）開演18時30分

ところ メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）

アイザックスターントホール

主催 天皇陛下御即位宮崎県奉祝会・天皇陛下御即位奉祝宮崎県議会議員連盟

式次第

オープニングアトラクション

和太鼓一座 心響鼓DON

第一部 奉祝式典

一、国歌斉唱

一、役員挨拶

一、奉祝メッセージ

一、聖寿万歳

第二部 祝賀コンサート

一、船引神楽

一、宮崎県民謡

一、大石 純子 エレクトーン演奏

一、堀之内 聰子 ハープ演奏

一、交声曲「海道東征」

天皇陛下御即位宮崎県奉祝会 会長 米良 充典 (一社)宮崎県商工会議所連合会会頭

「天皇陛下御即位をお祝いする宮崎県民の集い」の開催に当たり、主催者を代表してご挨拶申し上げます。

天皇陛下におかれましては、5月1日、わが国の悠久の歴史の中で連綿として守り継がれてきた皇統をお継ぎになられ、第126代天皇として即位され、新しい令和の御代が始まりました。

10月22日には、「即位礼正殿の儀」が、国内外の多くの賓客を招いて、古式に則り厳粛に執り行われ、天皇陛下が即位されたことが宣言されました。



更に、来る11月14日から15日にかけて、皇位継承に伴う、天皇御一代で一度限りの重要な儀式である「大嘗祭」が斎行されることとなっており、天皇陛下が、皇祖・天照大御神及び天地のあらゆる神々に対し五穀豊穣を感謝されると共に、国家・国民の安寧と平和を祈念されます。これらの皇位継承儀礼を通して国内外から皇室の伝統への注目が集まり、伝統と現代が調和融合した日本の美点が更に輝きを増していくものと思われます。

この新しい令和の御代と天皇陛下の御即位を、宮崎県民こぞって盛大にお祝いし、悠久の歴史と香り高き文化、美しい自然などの素晴らしい日本の国柄を改めて見直し、私達日本人が誇りをもって生きる令和の御代として参りたく存じます。

そのため、本年、本県において官民挙げて盛大に天皇陛下御即位奉祝事業を展開していくために、各界各層の皆様のご理解とご協力を得て、「天皇陛下御即位宮崎県奉祝会」を設立し、これまで奉祝記念講演会や奉祝パレードなどの事業を実施して参りました。そして、本日は、最大の奉祝行事として、「天皇陛下御即位をお祝いする宮崎県民の集い」を開催する運びとなりました。ご参集いただきました多くの県民の皆様に心から感謝申し上げますと共に、各種事業を推進するに当たり、これまで多大なるご協賛、ご支援を賜りました、多くの自治体、企業、団体、個人の皆様に対し、深甚なる感謝を申し上げる次第でございます。

本日は、悠久の歴史と伝統を誇る皇室の慶事をお祝いするに相応しいプログラムをご用意しました。奉祝太鼓、船引神楽、宮崎県民謡をはじめ、「神武東征」の建国神話に基づく、交声曲「海道東征」が宮崎でついに初公演されます。

それでは、本日の「県民の集い」を最後までお楽しみいただき、天皇陛下をいただき悠久の歴史を有する日本に生まれたことの喜びを皆様と共に分かち合いたいと存じます。

天皇陛下御即位を心からお慶び申し上げ、主催者代表の挨拶とさせていただきます。

天皇陛下御即位宮崎県奉祝会名誉顧問 宮崎県知事 河野 俊嗣

「天皇陛下御即位をお祝いする宮崎県民の集い」が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

また、宮崎県奉祝会の役員をはじめ関係者の皆様方におかれましては、各種奉祝事業の推進に御尽力を賜っておりますことに、深く感謝を申し上げます。

さて、天皇陛下の御即位を公に宣言される「即位礼正殿の儀」が10月22日に皇居宮殿において厳粛に執り行われました。私も、国内外の代表とともに参列の機会を賜り、儀式の御様子を拝見し、改めて心からお祝いを申し上げたところであります。

天皇陛下におかれましては、昭和62年の「宮崎県SAP25周年記念大会」等の行事で、はじめてお成りを賜って以来、これまで五度、御来県いただきました。私も、知事として、平成27年の「全国『みどりの愛護』のつどい」、「全国農業担い手サミット」の二度、お迎えする機会を賜りましたが、その度に、お立ち寄り先で、あるいはお道筋で、温かいお言葉とお心遣いを賜り、多くの県民とともに深い敬愛の念を抱いたものであります。

また、平成24年10月に宮内庁で陛下に御接見を賜った際は、口蹄疫、鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火など、相次ぐ災害に御心配と励ましのお言葉をいただき、さらには、県内の農業青年が皇室に毎年献上してきた「みかんの花」の香りを楽しんでおられるとのお話を賜り、陛下の温かいお人柄に触れ、まさに深い感銘と心からのお親しみを覚えたところであります。

現在、県におきましては、「記紀編さん1300年」を契機とした様々な取組の中で、古事記や日本書紀において「神武天皇が生まれた地」とされる本県を、数多くの神話や伝説、史跡とともに、県内外に広く紹介しております。その集大成の年である来年には、「第35回国民文化祭・みやざき2020」及び「第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」が本県で開催される予定ですが、天皇陛下の御代替わりに伴い、今年の大会から天皇皇后両陛下が御臨席される四大地方行事の一つとされました。現時点で両陛下に御臨席いただけるかどうか決まっておりませんが、仮に御来県いただけるのであれば、誠に光栄なことであり、県民の皆様とともに心からお待ち申し上げております。

結びに、人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ「令和」の時代にあたり、両陛下の御健康と皇室の限りない御繁栄を心からお祈り申し上げますとともに、本日の「県民の集い」を機に、皇室と県民の絆が更に深まりますことを祈念申し上げまして、奉祝の言葉とさせていただきます。



天皇陛下御即位奉祝宮崎県議会議員連盟 会長 丸山 裕次郎

本日、多くの県民の皆様がお集まりの中、「天皇陛下御即位をお祝いする宮崎県民の集い」が盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

天皇陛下におかれましては、本年5月、風薫る佳き日に御即位あそばされ、誠に慶賀にたえないところであります。天皇陛下御即位奉祝宮崎県議会議員連盟を代表いたしまして謹んでお祝い申し上げます。

御即位あそばされる以前に本県を御訪問いただきました折には、口蹄疫により甚大な被害を受けた農家などに対して、心からのお見舞いと温かい励ましのお言葉を賜りました。



このことに県民は大きな感動と深い感銘を受け、一丸となって着実に復興への歩みを進めることができたところであり、陛下の慈悲深いお心遣いに対して、改めて感謝申し上げる次第であります。

さて、陛下の御即位とともに、新元号である「令和」の時代が始まりましたが、この「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められていると伺っております。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、世界から注目を集める我が国において、日本人に古くから根ざした「おもてなし」の心などが多くの国々から高く評価されるようになりました。

「令和」という新しい時代におきましても、こうした我が国の文化や伝統がしっかりと受け継がれ、人々が心を寄せ合い、誰もが心豊かに暮らすことのできる、世界の模範となるような社会が創られていくことを切に願っております。

そして、本県におきましては、来年10月に「国民文化祭・みやざき2020」「全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」が開催され、御即位あそばされて初めて、陛下をお迎えすることが予定されております。

県民一人ひとりが陛下を温かくお迎えすることができるよう、本日の県民の集いをはじめとする様々な奉祝行事を通じて、県内における奉祝の機運がさらに高まっていくことを期待いたしております。

私ども県議会議員といたしましても「昭和」から「平成」、そして「令和」へと受け継がれた今日の平和と安寧を守りつつ県民の皆様が安心して暮らせる社会の実現に向けて、全力で取り組んでまいる所存であります。

結びに、令和の御代が、国民の幸せと繁栄を築き、世界に平和をもたらす希望に満ちた時代となりますことを御期待申し上げますとともに、天皇皇后両陛下のますますの御健勝と皇室の弥栄を御祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

出演者のご紹介

和太鼓一座 心響鼓DON (しんきょううつづみドン)

演目：「令和」

○和太鼓一座 心響鼓DON (平成10年7月1日結成。座長：野崎 幸士)

青少年の健全育成を目的とした保育園・小中学校・支援学校での和太鼓指導をはじめ、老人ホーム、福祉施設でのボランティア演奏、各地でのお祭り・イベントなどでの演奏を積極的におこなっています。
2004年、世界遺産カンボジア「アンコールワット」にて演奏。2006年、アメリカ・ニューヨーク「カーネギーホール」にて演奏。2009・2010年、中国・長沙にて演奏。2011年、モンゴル「ウランバートル」にて演奏。現在も全国で演奏活動を続けています。

○浅野 晴香 (民謡歌手)

宮崎市大淀小学校を卒業後、民謡歌手を目指して民謡の本場秋田県に単身で修行。平成17年、全東北民謡選手権大会 優勝、郷土民謡全国大会 内閣総理大臣賞、帰郷後も宮崎を中心に全国で活躍中。

○重信 優 (三味線奏者)

1980年～UMKテレビ宮崎「さんさんサタデー」にて「マー坊」の愛称で活躍。その後、鬼太鼓座の三味線奏者として全米大陸1,500kmを演奏しながら走破。津軽三味線 天地心絃流家元を務める傍ら、奏者としても国内をはじめ、アメリカ、ハワイ、上海、モンゴル等世界各国で日本文化を伝え続けている。

船引神楽

演目：「三笠鬼神」(みかさきじん)

舞人:岡 新之介 笛:田代 敏徳 太鼓:黒木 和昭 鐘:井上 啓一

船引神楽は、清武町に伝わる神楽で、五穀豊穣・子孫繁栄を願う舞です。江戸時代には定着していたといわれ、長い歴史の中では衰退の危機も度々ありましたが、継承者の努力によって、優雅で勇壮活発な33番の舞が現代に伝えられています。平成3年に宮崎県無形民俗文化財に指定されました。

今回、披露される舞は、船引神楽の中でもっとも見どころがあるとされる舞です。暴風雨を鎮めてもらうように風の神に頼むが、聞き入れないので、三笠鬼神が怒り、敢然として風の神に挑みます。

宮崎県民謡 (公益財団法人 日本民謡協会 宮崎連合会 日南会)

演目：「早調 ひえつき節」、「日向木挽き唄」、「正調 刈干切唄」、「シャンシャン馬道中唄」

1. 「早調 ひえつき節」 (唄い手：阿万 利政)

椎葉地方に伝わる労作唄です。椎葉村は山村のため、米は取れずに稗や粟を常食としてきたもので、その稗を立ち臼で搗くときにうたわれた唄です。

2. 「日向木挽き唄」 (唄い手：前田 進弘)

現在の日南市北郷町で唄われていた杉の丸太を引き割るときの労作唄です。

3. 「正調 刈干切唄」 (唄い手：田端 功)

高千穂地方で民家の屋根を葺く萱を刈り取る時の作業唄です。

4. 「シャンシャン馬道中唄」 (唄い手：前田 みづほ)

宮崎地方では江戸時代中期から明治の末頃まで、結婚する際は鵜戸神宮にお参りする習慣があったそうです。鵜戸神宮の参拝には、七つの峠、七つの海岸の難所を通らなければならず、花嫁は赤い毛布を敷いた馬に乗り、花婿がその手綱を引いて、シャンシャンと馬の鈴を鳴らしながら鵜戸神宮参りをうたった唄です。

(尺八：中山 強、谷口 雅啓 三味線：松 勝美 太鼓：稻積 郁江 お囃子：宮口 保子)

大石 純子（エレクトーン奏者）

演目：「舞」～田の神さあのための～ 大石 純子 作曲

大石 純子（宮崎学園高等学校非常勤講師、ヤマハハイグレード試験官）

「この曲は、田の神さあを初めて見た時に力強く舞っている様子が目に浮かび、音にしたものです。

田畠に吹く風、土臭さを感じて頂けたら嬉しく思います。」（大石 純子）

堀之内 聰子（ハープ奏者）

演目：「Chanson de Mai」 ALPH.HASSELMANS 作曲

堀之内 聰子（宮崎県出身。宮崎大宮高等学校卒業。宇都宮大学・教育学部教育心理学科卒業後、宮崎県に帰郷。ハープを「リラの会」主宰の菊池好志子氏に師事。）

演奏経歴：福祉施設・子育て支援センター・学校訪問・吹奏楽・歌の伴奏・他楽器アンサンブル演奏・県内ブライダルイベント・県内企業イベント・鹿児島県曾於市吉井淳二記念展アートコンサートやハープファンタジー・コンサート等多数出演。シーガイアサミットホールにて専属演奏。リラの会会員。

「ハープの音色を通して、聴いて下さる方の心にあたたかさを届けられるように…。心に響く音を目指して、心豊かな時間を皆様と共有できる活動を続けています。」（堀之内 聰子）

交声曲「海道東征」

指揮：地村 俊政 エレクトーン：大石 純子 ハープ：堀之内 聰子

ソリスト：（ソプラノ）河野 敦子、友納 真美（アルト）泊 かずよ

（テノール）有馬 誠（バリトン）大田原 勉

みやざき「海道東征」合唱団

地村俊政 宮崎大学名誉教授・宮崎県オペラ協会会长の指揮のもと、県内から集まり、本年6月に結成された幅広い年代層からなるアマチュアを中心とした合唱団。

「海道東征」のアマチュアによる公演は全国初めての試みで注目を集めています。

交声曲「海道東征」とは

交声曲「海道東征」は、昭和15年（1940年）の「皇紀2600年奉祝行事」のために書かれました。

歌詞は、「日本書紀」や「古事記」をもとに、近代日本を代表する詩人・北原白秋（1885-1942）が作詩。作曲は、山田耕筰らとともに日本の洋楽の礎を築いた信時 潔（のぶとき きよし）（1887-1965）。近年、東京や大阪、札幌などで次々と公演が行われ、大好評を博しています。天皇陛下御即位の本年、満を持して天孫降臨の地、そして神武東征出発の地・宮崎で「海道東征」が初公演されます。

指揮の地村俊政氏は次のように語る。「『海道東征』は日本の始まりや精神性を表現した名曲です。日本人の心のよりどころです。「海道東征」を日本人にとっての「第九」として大勢が各地で歌う環境をつくっていきたいですね。」

多くの国民が「海道東征」を誇り高く歌う我が国の歴史に根ざした新しい合唱文化が、令和の日本において、宮崎から全国へと「東征」を始めた歴史的出航の日が、まさに今日だったと語り継がれる日が近い将来くるのかも知れません。



交声曲「海道東征」の構成

第一章 高千穂(たかちほ)

天地創造に始まり、神武天皇の東征決意へ

第二章 大和思慕(やまとしほ)

まだ見ぬ大和へのあこがれがうたわれる

第三章 御船出(みふなで)

いよいよ日向・美々津から出航

第四章 御船謡(みふなうた)

船出にあたり、旅の安寧が祈願される

第五章 速吸と兎狹(はやすいとうさ)

大分の豊後水道や宇佐地方での出来事

第六章 海道回顧(かいどうかいご)

宇佐、筑紫、安芸、吉備の国を経て東へ

第七章 白肩津上陸(しらかたのつじょうりく)

河内の国への上陸と豪族との戦闘

第八章 天業恢弘(てんぎょうかいこう)

即位された神武天皇の偉業と建国の讃歌

第一章 高千穂

(男声独唱並びに合唱)

かみま あをぞら
神坐しき、蒼空と共に高く、
みま すめらみおや
み身坐しき、皇祖。
はる なかぞら
邈かなり我が中空、
きは すめらむすび
窮み無し皇産靈、
いざ あふ
いざ仰げ世のことごと、
あめ たか あれ
天なるや崇きみ生を。

くにな わたつみ しほ わか
国成りき、綿津見の潮と稚く、
こな くにつち
凝り成しき、この国土。
はる くにうみ
邈かなり我が国生、
あめ ぬぼこ
おぎろなし天の瓊鉢、
いざ き
いざ聽けよそのこをろに、
おほやしまあが
大八洲騰るとよみを。

みすまる あまで かみ みすゑ
皇統や、天照らす神の御裔、
よよま ひむか
代々坐しき、日向すでに。
はる
邈かなり我が高千穂、
かぎりなし千重の波折、
いざ祝げよ日の直射す
うみやま て みやみ
海山のい照る宮居を。

【莊厳に始まり、勇壮な東征の決意へ】

< 現代語訳 >

神々は住まわれていた、青空のように高い高天原に、
住まわれていた、皇祖の神々は。

遙かなり我が中空、
限りなし万物を産む神々の力は、
いざ仰げ世の全てのものを、
高天原における崇高な神々の誕生を。

国が作られた。大海に潮の如く浮かんでいたもの、
神々がそれを固められ、この国土となつたのだ。

遙かなり我が国の生成、
限りなし天の瓊矛の徳は、
いざ聽け、矛で潮をこをろこをろとかき廻し、
大八洲(日本)から立ちのぼる鳴り響きを。

皇統(天皇の御血統)は、天照大神の御子孫であり、
代々住まわされてきた、日向の国にすでに久しく。

遙かなり我が高千穂、
限りなし幾重にも続く波は、
いざ祝え、海からの朝日がまっすぐに射し、
山からの夕日が照らす輝かしい神のお住まいを。

かみま ちいほあきみづほ
神坐しき、千五百秋瑞穂の国、
すめぐに とよあしはら
皇国ぞ豊葦原。

はる はつくに
邈かなり我が肇國、
きは あま わざ
窮み無し天つみ業、
いざ征たせ早や東へ、
みちた みうつくしひ
光宅らせ王沢を。

第二章 大和思慕

女声(独唱並びに合唱)

やまと
大和は国のまほろば、
たなづく青垣山。

ひむがし もなか
東や国の中、
とりよろふ青垣山。
うるは たこも
美しと誰ぞ隠る、
誰ぞ天降るその磐船。

かな しほつち をぢ
愛しよ塩土の老翁、
きこえさせその大和を。

やまと ききうるは
大和はも聴美し、
くもみもひはる
その雲居思遙けし。
うるは やまと
美しの大和や、
やまと
大和や。

神々が住まわれ、永遠に栄える瑞穂の国(日本)よ、
天皇が治められる国だ、豊葦原(日本)は。

遙かなりわが國の創始たる天孫降臨、
きわみなし神の御治世、
いざ出征されよ早や東へ、
天下に充ちわたらしめ給へ、大君の御慈愛を。

【ソプラノとアルトによる天上の歌声】

大和は国々の中でもっとも素晴らしい所、
幾重にも重なる垣根の様に周囲を囲む青い山々。

東よ、そこは国の中、
最も美しい垣根の様な青い山々。
その素晴らしい土地に誰が住んでいるのだろう、
誰が降臨したのだろう、天下る磐船で。

愛おしや、塩土の大神よ、
申し上げよ大君に、その大和の素晴らしさを。

大和は美しい所だと聞いている、
その雲の上のような地を遥かに思う。
うるわしき大和よ、
大和よ。



現代語訳は、天皇陛下御即位宮崎県奉祝会事務局・オリジナル訳で、詳しい解説や背景を割愛し、直訳に近い形で訳した。全八章の内、今回公演される第一章から第四章までの歌詞を掲載した。

典拠：杉本和寛（東京藝術大学音楽学部音楽文芸講座教授）「海道東征」歌詞対訳

風間景次郎（明治35年生～昭和35年没、国文学者）著「海道東征註」（昭和18年8月20日発行）

次田真幸 著「古事記（上）全訳注」（講談社学術文庫）

第三章 御船出

男声女声 (独唱並びに合唱)

その一

日はのぼる、旗雲の豊の茜に、
いざ御船出でませや、
うまし美々津を。
海風ぎぬ、陽炎の東に立つと、
いざ行かせ、照り美しその海道。
海風ぎぬ、朝ぼらけ潮もかなひぬ、
ともへつ 舢舡接ぎ、大御船、御船出今ぞ。

その二

あな清明け、神倭磐余彦、その命や、
あな映ゆし、もろもろの皇子たちや、
その皇兄や。
行でませや、おほらかに大御軍、
まだ蒙し、遙けきは鴻荒に属へり。

慶を皇祖かく積みましき、
正しきを年のむた養ひましぬ。

神柄や、幾万、年経りましき、
暉や、かつ重ね、代々坐しましぬ。

和み靈、また和せ、ただに安らと、
荒み靈、まつろはぬいざことむけむ。
大御稜威い照らすと御船出成りぬ、
日の皇子や、御鉾とり、かく起ちましぬ。

【美々津からの御船出を声高らかに】

その一

日は昇る、たなびく雲は豊かな茜色に、
いざ御船を出されませ、
美しい美々津(宮崎県日向市)を。
海は凪いだ。暁の朝日が東から昇ると、
いざ行かれよ、朝日が照る美しいその海道を。
海は凪いだ。明け方に潮の流れも整った、
船尾と船首が相接する大船団、御船出今ぞ。

その二

ああ清々し、神倭磐余彦の命(神武天皇)よ、
ああ照り映える諸々の皇子たちよ、

その兄君よ。
進まれよ、大らかに、大君の軍勢よ、
まだ蒙昧で、日向より遙かな地は未開のまま。

恩恵を皇室のご祖先はかく積まれ、
正しき道を年と共に養って来られた。

神々の徳よ、幾万もの年を経て来られた、
明徳の君が重ねて代々続かれた。

なごやかなる御靈よ、安らかに平定させよ、
荒き御靈よ、服従せぬ者を帰順させよ。
大君の御威光を照さんと御船出となつた、
日の皇子が矛を取り、かく御起ちになつた。



その三

日はのぼる、旗雲の照りの茜を、
いざ御船、出でませや、明き日向を。

海風ぎぬ、満潮のゆたのたゆたに、
いざ行かせ、照り美しその海道。

海風ぎぬ、朝ぼらけ潮もかなひぬ、
ともへつ 舢舡接ぎ、大御船、御船出今ぞ。

第四章 御船謡

男声（独唱並びに合唱）

その一

御船出ぞ、大御船出、
御伴船舉りさもらへ、
御伴びと舉り仰げや。
揺りとよめ科戸の風と
声放て、東に向きて。
大御船真梶繁ぬき、
照りわたる御弓の弭、
あな清明け、神にします、
あな眩ゆ、皇子にします。
はろばろや大海原、
涯なしや青水沫、
揺りとよめ大き国民、
大君に、この神に、
讃へ言、
寿詞申せや。

その三

日は昇る、たなびく雲が茜色に照り輝く中を、
いざ御船を出されませ、朝日で明るい日向を。

海が凪いた、満潮で海面が穏やかに揺れる中、
いざ行かれよ、朝日が照る美しい海道を。

海が凪いた、明け方に潮の流れも整った、
船尾と船首が相接する大船団、御船出今ぞ。

【冒頭、ハープとバリトンの美しい共演、 そして、弥栄のフィナーレへ】

その一

御船出ぞ、大君の御船出、
御供の船もこぞって風波の様子を待て、
御供の人々もこぞって仰げよ。
大声で揺り動かせ、(災いを祓う)科戸の風を求め
声放て、東に向きて。
大君の御船に櫂(オール)を多く貫き通し、
照りわたる兵士隊の弓筈(弓両端の弦をかける所)、
ああ清々しき、神でいらっしゃる、
ああ眩しい、皇子でいらっしゃる。
はるばるとした大海原、
果てのない青い海の水、
揺り動かすような大声で申し上げよ国民よ、
大君に この神たる大君に、
御讚えする言葉を、
言祝ぎの言葉を申し上げよ。

その二

荒海の、

荒海の潮の八百道の、

八潮道の、潮の八百会に、ハレヤ、

とどろ坐す

速開津姫に、

朝開、朝のみ霧の

遠白に、

末鎮み

鎮まらせ、

み眼すがすがと笑ませとぞ、

きこしめせと申さく

み船謡。

その二

荒海の、

荒海の潮の無数の潮流の、

多くの潮流が、合流するところに、ハレヤ、

とどろと響きを上げる中に鎮座します

速開津姫に申し上げます、

早朝の出航時、朝の霧のように

遠くまで白く、

どこまでも静かな朝霧のように

御鎮まり下さい、

御眼涼しく微笑み下さるように、

お聞き下さいと申しあげる

御船謡でございます。

その三

い

ヤアハレ

うなばら あをうなばら
海原や青海原。

ヤアハレ

あをぐも そたち
青雲やその退ぎ立、

その極み、

こをば。

我が海と大君宣らす、

我が空と皇孫領らす。

ろ

ヤアハレ

しほなわ
潮漚のとどまるかぎり、

舟の舳の行き行くきはみ。

ヤアハレ

島かけて、八十嶋かけて、

大海に舟満ちつづけて。

見はるかし大君宣らす、

四方つ海皇孫領らす。

その三

<い>



ヤアハレ

海原や、青海原。

ヤアハレ

青空よ、その遠く離れて立つ、

その果てまでも・・・。

是れを、

我が海であると大君は仰せになる、

我が空であると皇孫が御治めになる。

<ろ>

ヤアハレ

潮の泡がなくなるその果てまで、

船首が行き着くその果てまで。

ヤアハレ

島目指し、多くの島々を目指し、

大海に大君の船が増え続けて。

遙かに見渡して、大君はこう仰せになる、

四方の海全ては皇孫が治めるところであると。

は

ヤアハレ
くにつち おほくにつち
国土や、大国土。

ヤアハレ
かべ そ たち
国の壁、その退ぎ立、
その極み、
こをば。

我が国と大君宣らす、
我が土と皇孫領らす。

に

ヤアハレ
あをぐも そ た
青雲の退ぎ立つきはみ、
しらくも むかふ
白雲の向伏すかぎり。

ヤアハレ
たにぐく
谷蟻のさわたらきはみ、
馬の爪とどまるかぎり。
見はるかし、大君宣らす、
よもすめみまし
四方つ国皇孫領らす。

ほ

狭の国は広くと、

ヤ
けは たひ
嶮し国平らけくや。

ヤ
遠き国は綱うち掛け、
もそろよと、もそろと、
国引くと、引き寄すと。

あなたおほら、大君宣らす、
あなたをかし、目翳しおはす
え善しや、善しや、弥栄。
とどろとどろ、弥栄。

<は>

ヤアハレ
この国土よ、大いなる国土。

ヤアハレ
国の四周にある天の壁、その遠く離れて立つ、
その果てまでも・・・。
是れを、
我が国であると大君は仰せになる、
我が土地であると皇孫が御治めになる。

<に>

ヤアハレ
青空が遠く離れて立つその果てまで、
白雲が地に伏すように見える果てまで。

ヤアハレ
ヒキガエルが動き回る地の果てまで、
馬の爪がすり減ってなくなる程の遠い果てまで。
遙かに見渡して、大君はこう仰せになる、
四方の国全ては皇孫が治めるところである。

<ほ>

狭い国は広くと、
ヤ
騷乱の国は平らかに。

ヤ
遠き国には綱をうち掛け、
そろりと、そろりと、
国引くと、引き寄すと。

ああ国が大きくなってきた、と大君は仰せになる、
ああ素晴らしい、と手をかざして国見をされる
善きかな、善きかな、いよいよ栄えよ。
鳴り響くがごとく、いよいよ栄えよ。

「天皇陛下御即位宮崎県奉祝会」役員等ご就任名簿

(令和元年11月7日現在 敬称略・市町村以外は五十音順)

〈名誉顧問〉

河野 俊嗣	宮崎県知事
〈会長〉	
米良 充典	(一社)宮崎県商工会議所連合会会頭
〈副会長〉	
本部 雅裕	宮崎県神社庁長
渡邊 倫章	日本会議宮崎会長
〈顧問〉	
島津 久友	第29代島津家当主
武井 俊輔	衆議院議員
江藤 拓	衆議院議員
古川 穎久	衆議院議員
中山 成彬	衆議院議員
松下 新平	参議院議員
長峯 誠	参議院議員
丸山 裕次郎	宮崎県議會議長
戸敷 正	宮崎県市長会会长
黒木 定藏	宮崎県町村会会长
中川 義行	宮崎県市議會議長会会长
内山田 善信	宮崎県町村議會議長会会长

〈奉祝委員〉

戸敷 正	宮崎市長
池田 宜永	
読谷山 洋司	延岡市長
崎田 恭平	
宮原 義久	日南市長
十屋 幸平	小林市長
島田 俊光	日向市長
押川 修一郎	串間市長
村岡 隆明	西都市長
木佐貫 辰生	高千穂町長
高妻 経信	えびの市長
中別府 尚文	高原町長
糸田 学	国富町長
黒木 敏之	綾町長
小嶋 崇嗣	高鍋町長
黒木 定藏	新富町長
半渡 英俊	西米良村長
日高 昭彦	黒木町長
河野 正和	延岡町長
安田 修	門川町長
西川 健	諸塙村長
椎葉 晃充	日之影町長
田中 秀俊	高千穂町長
甲斐 宗之	宮崎市議會議長
佐藤 貢	宮崎県議會議長
原田 俊平	宮崎県議會議長
中川 義行	宮崎市議會議長
榎木 智幸	宮崎県議會議長
松田 和己	宮崎県議會議長
濱中 武紀	宮崎県議會議長
坂下 春則	宮崎県議會議長
黒木 高広	宮崎県議會議長
中村 利春	宮崎県議會議長
中武 邦美	宮崎県議會議長

〈奉祝委員〉

北園 一正	えびの市議會議長
重久 邦仁	
温谷 文雄	三股町議會議長
渡辺 静男	
日高 幸一	高原町議會議長
青木 善明	国富町議會議長
永友 繁喜	綾町議會議長
濱砂 恒光	新富町議會議長
神田 直人	高鍋町議會議長
河野 浩一	木城町議會議長
黒木 幸範	川南町議會議長
内山田 善信	都農町議會議長
若本 幸徳	門川町議會議長
岡村 正司	諸塙村議會議長
甲斐 秀徳	椎葉村議會議長
工藤 博志	美郷町議會議長
甲斐 徳仁	高千穂町議會議長
甲斐 政國	日之影町議會議長
有馬 晋作	五ヶ瀬町議會議長
稻丸 利弘	(大)宮崎公立大学学長
岩元 光男	神道政治連盟宮崎県本部長
内村 仁子	宮崎県偕行会会长
小倉 和彦	日本会議宮崎 女性の会会长
長田 一郎	日本会議宮崎 理事長
小山 明俊	宮崎県民生委員兒童委員協議会会长
梶田 澄男	(一社)宮崎県薬剤師会会长
川越 宏樹	佛所護念會教団宮崎地方教会教会長
河野 雅行	(学)宮崎総合学院 理事長
木本 宗雄	(公社)宮崎県医師会会长
吉良 啓	日本会議宮崎 延岡支部支部長
倉永 慎一	延岡支那婦人委員協議会会长
黒岩 昭彦	(学)宮崎日本大学学園理事長
黒木 興輔	宮崎県保育連盟連合会理事長
黒木 定藏	(一社)宮崎県保健衛生連盟連合会理事長
黒木 茂夫	鵜戸神宮司
黒木 廣伸	宮崎県神道青年会会长
後藤 洋一	宮崎県公民館連合会会长
坂 佳代子	黒木定義
重城 正敏	(福)日向更生センター理事長
杉田 秀清	(公社)宮崎県食品衛生協会会长
関谷 忠	(一財)宮崎県歯科医師会会长
添田 昌邦	(公財)宮崎県産業資源循環協会会长
高橋 昌久	(公財)宮崎県歯科医師会会长
竹内 一久	宮崎県小学校長会会长
玉置 徳行	宮崎県産業資源循環協会会长
田村 努	宮崎県地域婦人連絡協議会会长
谷口 由美繪	宮崎大学名譽教授
地村 俊政	(一社)宮崎県消防協会会长
長 秋美	宮崎県子ども育成連絡協議会会长
泊 かずよ	宮崎県オペラ協会理事長
中野 一則	日本会議宮崎えびの支部支部長
永野 雅康	日本会議宮崎 理事兼事務局長
永野 雄太	(株)永野 代表取締役

〈奉祝委員〉

南部 恵	宮崎県自治会連合会会长
西田 幸一郎	
百野 裕子	宮崎神宮敬神婦人会会长
淵上 鉄一	
堀之内 芳久	宮崎県中小企業団体中央会会长
眞方 侃	宮崎県偕行会顧問
丸目 賢一	宮崎県土地改良事業団体連合会会长
三浦 秀明	宮崎県隊友会会长
右松 隆央	宮崎県議会自由民主党日本会議懇話会会长
本蘭 秀三	宮崎県モラロジー協議会会长
森迫 建博	宮崎県幼稚園連合会会长
山崎 福男	(公財)宮崎県老人クラブ連合会会长
山下 恵子	(学)宮崎学園理事長
山中 容子	崇教真光宮崎中修驗道場長
横堀 仁志	南九州短期大学学長
吉田 孝平	宮崎市商店街振興組合連合会理事長
吉田 好克	宮崎大学准教授
米村 公俊	宮崎県中学校長会会长
渡部 京子	宮崎県看護連盟会長

天皇陛下御即位奉祝宮崎県議會議員連盟

〈会長〉

丸山 裕次郎 宮崎県議會議員

〈副会長〉

山下 博三 宮崎県議會議員

〈会員〉

坂口 博美 宮崎県議會議員

星原 透 宮崎県議會議員

蓬原 正三 宮崎県議會議員

井本 英雄 宮崎県議會議員

徳重 忠夫 宮崎県議會議員

中野 一則 宮崎県議會議員

横田 照夫 宮崎県議會議員

外山 衛 宮崎県議會議員

濱砂 守 宮崎県議會議員

西村 賢 宮崎県議會議員

右松 隆央 宮崎県議會議員

二見 康之 宮崎県議會議員

日高 博之 宮崎県議會議員

野崎 幸士 宮崎県議會議員

日高 陽一 宮崎県議會議員

武田 浩一 宮崎県議會議員

山下 寿 宮崎県議會議員

窪薙 辰也 宮崎県議會議員

脇谷 のりこ 宮崎県議會議員

佐藤 雅洋 宮崎県議會議員

安田 厚生 宮崎県議會議員

内田 理佐 宮崎県議會議員

有岡 浩一 宮崎県議會議員

日高 利夫 宮崎県議會議員